



穂屋祭

宮坂静生

穂屋祭諏訪の山河を供奉せしめ
姥百合の実の遠巻きに穂屋祭
ふんだんに月光入るゝ穂屋の隙
しんしんと夜気の荒ぶる穂屋祭
盆莫蔭に刈られざる葎さみしきか
飯粒に躪く 閼 広島 忌
広島の誓ひ泥鰯を飼ひませう
戦没画学徒興 栢の姓も晩夏
日に一度肺腑いつぱい葦咲かす

カヤック―エスキモーの小舟、カナーのごとし。

カヤックの櫂を漕がされ生身魂
奔流へ出てカヤックの父子かな
カヤックの迅し身を剝り貫かれたる
ひぐらしの鳴きし世徐々に退去りゆく
をみなへし頂き平ら隘路に
谷口は紛雑の地よ 猿 狩
沢渡は山の結びめ 秋の水
田の実入り放てる妖気とも違ふ
満月の産み落されし翠なす

